

## 教育長室からのお知らせ No. 95（令和5年6月）

教育長 田中 康寛



雨に映える紫陽花が美しい季節となりました。植物の緑や花だけではなく、色とりどりの傘の花も楽しみたいと思います。

先日、学校を訪問する機会がありました。児童生徒の笑顔や休み時間に響き渡る元気な声がとても印象的で、コロナ禍前の学校生活や教育活動に戻りつつあることを実感したところです。

また、5月は、市内の多くの学校で運動会・体育祭が開催され、私も時間の許す限り訪問させていただきました。児童生徒が楽しそうに競技に参加し、一生懸命頑張り、声援や歓声が校庭を駆け巡り、児童生徒はもちろん、教職員も保護者の皆さんも応援する姿が清々しく感じられました。コロナ禍では、子どもたちの学びを止めないよう、さまざまな工夫をしながら教育活動を行ってまいりました。学校行事のねらいや目的をこれまで以上に意識し、行事内容を精選しており、運動会・体育祭においても、コロナ禍前とは違う新しさを感じました。今後も「何のために教育活動を行うのか」を確認しながら、子どもたちにとっても教職員にとっても限られた時間の中で無理なくできるように計画し、取り組んでまいります。

今年は、7月下旬から12日間の日程で、市立中学校の中学生16名をドイツ連邦共和国ローゼンハイム市へ派遣します。コロナ禍のため、令和2年度は手紙交換、3年度と4年度がオンラインによる交流でしたので、派遣は4年ぶりとなりますが、5月27日に保護者説明会を終え、準備は順調に進んでいます。参加する生徒がホームステイや現地学校での交流などを通して、地球的な視野に立って主体的に行動する資質、能力、態度を養い、高めるとともに、市川市民として、地元で起こっている課題にも目を向け、地域人としても活躍してくれることを願っています。オンラインで得られる学びも貴重ですが、現地に実際に赴き「見て、触れて、感じる」体験では、さらに多くの気づきを得られることでしょう。体験に勝るものなしです。

これから本格的な梅雨を迎えると、湿気により、園・学校においては廊下が滑りやすくなります。この季節ならではの事故に注意し、安全に学べる環境づくりに努めてまいります。